

本日は、「出雲国風土記シンポジウム」を開催したところ、多くの皆様方にお出でいただき、誠に有難うございます。

また、シンポジウムの基調講演いただく東京大学の佐藤教授をはじめ、パネリストの皆様には、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、最近の日本の古代史を巡る動きを見ますと、4年前の2010年には、奈良県で「平城遷都1300年祭」の大きな祭典がありました。

その2年後の2012年は、「古事記編纂1300年」の年でありました。

「古事記」には、「スサノオのおろち退治」、「オオクニ主の命の国譲り」など「出雲神話」が、沢山のっており、島根県は、京都と東京で「古事記編纂1300年」の特別展を行いました。東京では天皇・皇后両陛下にご来臨いただきました。

昨年、2013年は「出雲大社」の60年に一度の「大遷宮」で、「伊勢神宮」では20年に一度の「式年遷宮」で、それぞれ多くの方がこられました。

このような動きの中で、国民の皆様の間では、日本の古代世界や日本の成り立ちに対する関心が非常に高まってきているように思います。そしてこれに関連した書籍も数多く発行されております。

こうした中で、島根県では、古代世界との関わりの深い奈良県、三重県、宮崎県などと連携して、昨年9月に「古代歴史文化賞」を創設しました。

古代世界を分かり易く紹介した書籍を表彰することで、国民の皆様の関心がさらに高まるようにとの思いを込めたものであります。

さて、昨年は、本日のテーマである『風土記』を編纂せよという指令が平城京の大和王権から全国各地に発出されてから1300年の年でもありました。

島根県の『出雲国風土記』は、全国で唯一ほぼ完全な形で残っている「風土記」であります。『古事記』、『日本書紀』と並び、貴重な古代の文献であります。

本日のシンポジウムでは、『出雲国風土記』を通して、日本の古代世界、古代出雲社会の実態などを皆様とともに理解を深めていければ、と思っております。

皆様方のご来場に重ねてお礼申し上げ、開会のご挨拶に代えさせていただきます。